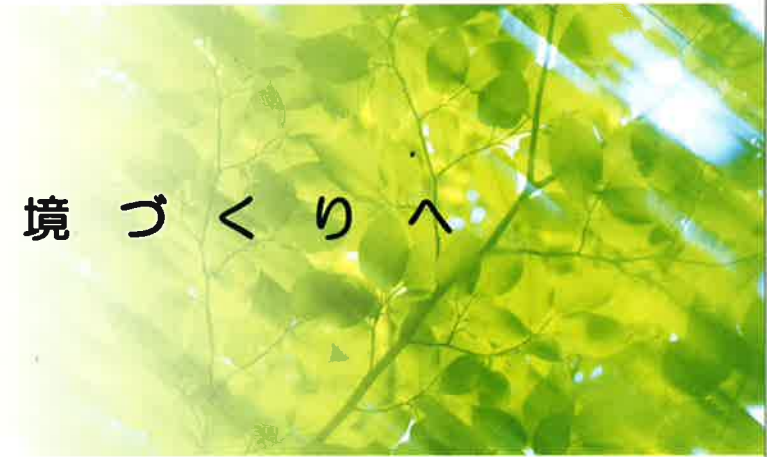


Corporate Profile

会社案内



緑が生きる環境づくりへ



ISO 9001:2000
Cert No: CI/3498

みどりに関する調査・計画

株式会社 **緑化技研**



緑は生態系の基盤であり、人が健やかに生きていくうえで欠かせない存在です。

1983年創業以来、当社では自然環境調査のうち植物調査を得意分野として実績を重ね、信頼を高めてまいりました。

これまでに培われた植物への深い洞察力を活かし森林整備計画、河川計画、緑化計画、地域計画等において

自然環境の保全・創造の技術を提供するのが

私たち緑化技研の使命と考えております。

企業理念

独創の調査・解析をもとに

“地球にやさしい”とか“人と自然の心地よい関係”といった言葉をよく耳にする昨今ですが、人にとっても緑にとっても都合のよい状態は、そう容易につくりだせるものではありません。私たち緑化技研は“緑を識るもの”として、緑のもつ多面的な機能を的確に捉え評価するとともに、それらが最大限に発揮されるような保全・利用の提案を行い人と緑の共生に向けた環境づくりをお手伝いします。

緑を捉え、緑を活かす

緑あふれる潤いのある生活環境は地域住民の願いです。地域に溶け込み、永く親しまれる緑地を創るには種の選定など、綿密な検討が必要です。郷土種の活用や景観への配慮も含め地域特性に合わせた緑化方法を提案します。

豊かな
緑の創出

自然環境の
保全・復元

人為により何らかの影響を受けたりまた受けることが予測される植物や植生を保全することは、いまや事業主や管理者の責務となりつつあります。身近な自然から特殊環境地の植生まで多様なケースや条件に生態学的視点からお応えします。

環境資源の
有効活用

すべての資源は有限であり、再利用可能なものは積極的に利用すべきだという認識が広がりつつあります。開発事業での伐採樹木や採取表土も貴重な環境資源です。その有効な活用方法を計画・提案し、事業の社会的評価と付加価値の向上に貢献します。

人と自然の
新たな関わり

自然が身近な存在でなくなってしまった現代、今の時代に合った人と自然との関わり方を再定義し、実現することが重要になっています。利用に、維持管理に、その経済性や話題性も考慮したトータルな緑地計画を立案・推進します。

事業内容

多様な視点からの調査・解析をベースに
確かな現況把握に基づく最善策を導き出します

自然環境の保全・復元に向けて

まず植物・動物や地形・地質・土壌、景観等の自然環境を総合的に診断し、その特性と貴重性を把握。開発事業の実行によって起こりうるそれらへの影響を予測し、貴重な動植物及び生育環境の保全対策、開発の代替案・代替措置(ミチゲーション)を提案します。また、復元においては明確な目標を設定し、それを実現するための適切な工法、施工後のモニタリングを計画・実施します。

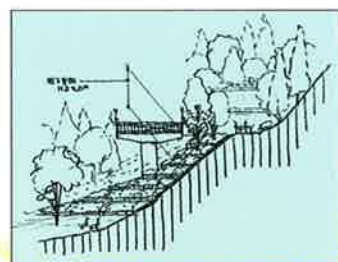


山岳地帯の厳しい自然も、人為にもろい側面があります。登山者の踏圧による裸地の拡大に対しては、現況植生の把握と登山者の行動パターンにもとづいた植生復元計画の策定が必要です。

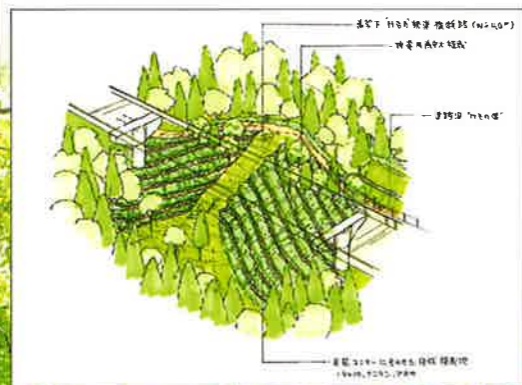


生態系の保全をはかるには、動物と植物の密接な関係に留意する必要があります。絶滅の危機に瀕するギフチョウの保護には食草であるカンアオイ属の存在が欠かせません。

豊かな緑の創出に向けて



野生動物の生息域の分断を緩和するため、エコロードの建設が各地ですすめられています。のり面緑化の際は、動物の誘導に有効な地栽種を選定したり、周辺樹林と一体化するような郷土種の植栽によって緑のネットワークを形成します。



より良い緑化計画を実現するには、地域特性や地域住民のニーズを重視する必要があります。地域の人々が希望している緑のあり方(質や量)を調査・検討するとともに、緑化のための条件を整理し、郷土種の活用や景観への配慮も組み入れて、早期緑化に努めた最適な緑化方法を提案します。

環境資源の有効な活用に向けて

開発事業において従来は廃棄処分されてきた樹木や表土も、事前に区域内の植生を把握し、植物資源調査を実施することで、有効に活用することが可能です。緑化材料としての樹木の移植、緑化基盤としての土壌の利用、景観構成に寄与する大径木や野草の移植などのほか、伐採木のチップ化や造園材料化など、資材としての活用方法も提案します。



ササユリ(ユリ科)は里山の林縁によく見られる野草。開発によって生育地が失われる場合は、残存樹林等に積極的に導入して種の保存と景観形成をはかります。



間伐材を利用した階段。里山林の育成管理で伐採された樹木をチップ化して舗装材として敷きならしています。

人と自然の新たな関わりに向けて



人と自然の新たな関わりは、地域環境への配慮とともに、住民の理解と参加を得てこそ成功します。現状の自然環境の特性や貴重性、地域一帯の社会環境や住民の要望を把握したうえで、里山の植生管理手法や人工林の整備・管理、市民参加型の森林活動のための施策等を提案。事業の成功をトータルに支援します。



薪炭林利用の名残をとどめる炭焼き小屋。里山の保全活動は切り出した木で炭をつくったり工作をしたりするレクリエーションを通して文化と伝統を継承します。

都市近郊の里山林では、レクリエーションや環境教育の場としての期待が高く、林内花木の開花や生物の多様性を高めるための植生管理計画が求められています。

知識と経験、データベースを駆使して

一貫した体制でベストを追求します

環境計画の成否を決めるのは、その基礎となる調査・解析であり
正しい現況把握なくして、真に意義ある計画を実行することはできません。
緑化技研では、自然環境に熟知した自社スタッフが徹底したフィールド調査を行い
多面的なデータ解析と検討をもとに、個々のケースに応じた最適な計画を立案。
一貫した体制で信頼性の高い業務を遂行します。



各専門家とのネットワークづくりも行っています

私たち緑化技研は「植物は生態系の基盤である」という観点から、植物にこだわると同時に、環境保全対策への具体的な提案が強く求められる今日、動物調査から得られた情報との融合に取り組むなど、相互の関係の中から植物を捉え直すことにも注力しています。また、地質や水質、動物や土木、造園などの専門家と連携し、総合的な環境調査・環境計画のご要望にも対応。各専門分野の知識を結集して多段階にわたる調査・解析を行い、あらゆる角度から望ましい自然環境づくりを提案します。



現況把握のための基本となる野外調査項目

植物相調査

対象地に出現する植物種をリストアップして植物相の概要を把握する。同時に貴重な植物種の有無や生育状況、生育環境を把握する。通常、シダ植物以上の高等植物を対象に、(早)春季、夏季、秋季の3~4シーズンに実施。

調査から得られる資料

- 植物目録
- 貴重な植物種リスト及び分布図
- 貴重な植物種の生育状況



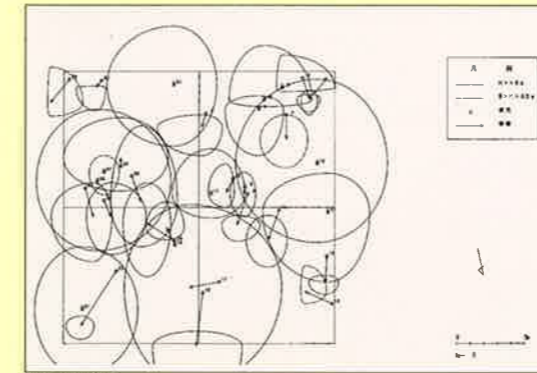
貴重な植物種分布図

毎木調査

現況樹林の構造の把握と、森林の具体的な整備計画を策定する上で必要となる樹木の定量的状況把握を目的に行う。通常、10m×10m程度の調査枠を設定して、そこにある立木の種名、胸高直径、高さ等を測定・記録する。

調査から得られる資料

- 樹高階、樹種、密度、胸高断面積等を用いた各種解析グラフ
- 樹冠投影図(根元位置、葉張り等の調査が必要)



樹冠投影図

植生調査

ブラウンプランクの全推定法をはじめ、さまざまな手法を用い、現地にて植生区分ごとの階層構造、構成種などを調査する。通常、植物の生育が旺盛になる夏季に行う。また、事前に航空写真の判読により植生区分を行い、現地調査結果を踏まえて植生図を作成する。

調査から得られる資料

- 植生図
- 植生自然度図
- 潜在自然植生図
- 断面模式図
- 群落組成表
- 植物群落特性表
- 種の多様性、植生遷移状況等に関する解析データ



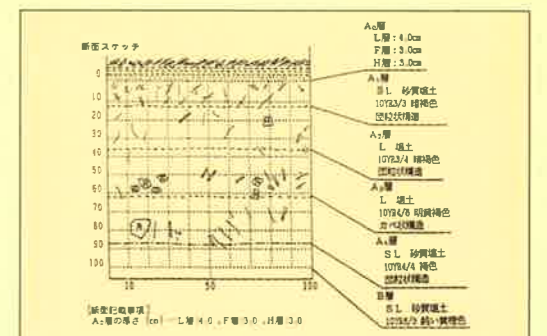
断面模式図

土壌調査

立地条件の診断、植生遷移動向の予測、緑化木の生育基盤として有効な表土量の推定等を目的に行う。通常、国有林野土壌調査法により、深さ1m・幅1m程度の穴を掘り、層位区分のうえ、土壌断面の状況を記録し、定性的な土壌特性(土色、土性、構造様式など)を把握する。また、植栽が予定されている場合はサンプルを採取し、定量的な物理性、化学性を把握する。

調査から得られる資料

- 土壌断面模式図
- 土壌図
- 表土量分布図
- 土壌柱状図
- 各種理化学分析表



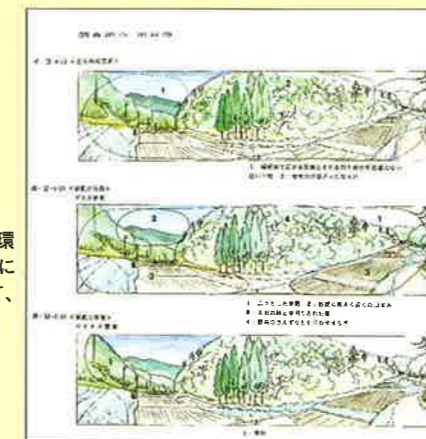
土壌断面模式図

景観調査

対象地周辺または対象地内の主要な視点場から、環境を視覚的に捉えた場合の特性を把握する。開発に対しては、土地改変後の景観をシミュレーションして、その影響を予測したり、影響軽減措置を検討する。

調査から得られる資料

- 注目すべき景観資源及び視点の分布図
- 景観特性カルテ
- 景観構造解析図



景観構造解析図



みどりに関する調査・計画

株式会社 緑化技研

〒556-0016 大阪市浪速区元町3丁目9番10号 清水ビル TEL.(06)6644-3146 FAX.(06)6645-7506